

生薬ニュース

近畿大学東洋医学研究所附属診療所調剤室

今月のピックアップ

ちょうとうこう
釣藤鈎

チョウトウコウとは・・・

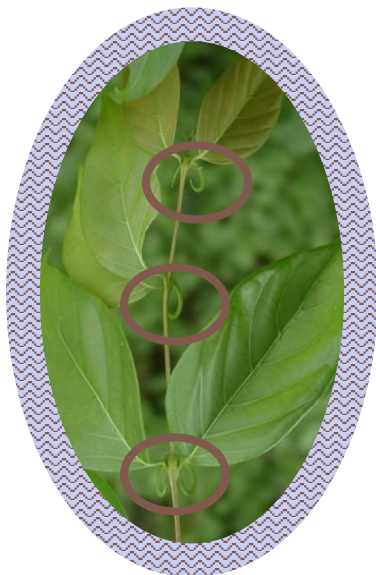
カギカズラ： *Uncaria rhynchophylla*、*U. sinensis* 又は、*U. macrophylla* のトゲの部分のことで、カギカズラのツタにある鈎（かぎ）状のトゲを採り生薬とします。産地は主に中国で、広西、湖北、湖南、貴州、江西、四川、雲南省で産出されます。

【薬能】 平肝潜陽、熄風止痙、清熱、舒筋活絡

【性味】 甘、微寒

チョウトウコウの成分とその効能・・・

アルカロイドとして、リコフィリン、イソリコフィリンなどを含み、主な薬理作用に、血圧降下作用、消炎作用、鎮痙作用などがあります。今回【薬能】の項目で説明した効果として、『平肝潜陽（へいかんせんよう）』とは、鎮静、降圧、催眠など、『熄風止痙（そくふうしけい）』とは、けいれんや筋肉の震えなどを止める作用、『舒筋活絡（じょきんかつらく）』とは、脳血管障害による麻痺に対する作用を示すといわれています。



チョウトウコウのトゲ・・・

チョウトウコウのこの特徴的なトゲですが、カギカズラはこのトゲをほかの植物に引っ掛けて上に這い登っていく植物です。生薬としてはこの小さなかぎ状のトゲのみを使用します。

また、南米アマゾンで古くから利用されているカギカズラの仲間（*Uncaria tomentosa*）はそのトゲの形状が猫の爪に似ていることから、キャッツ・クロー（Cat's claw）と呼ばれ、その樹皮や茎は民間薬として抗炎症作用や免疫系に対する作用などを期待して、現在に至るまでサプリメントとして世界各国で使用されています。

チョウトウコウが含まれる方剤・・・

ちようとうさん
釣藤散

(高血圧症、動脈硬化、更年期障害、頭痛)

しちもつこうかとう
七物降下湯

(身体虚弱の傾向のあるものの、高血圧の随伴症状：
のぼせ、肩こり、耳鳴り、頭重)

よくかんさん
抑肝散

(虚弱体質で神経がたかぶりやすいものの、
神経症、不眠症、小児夜泣き、歯ぎしり)

よくかんさんかちんぴはんげ
抑肝散加陳皮半夏

(虚弱体質で神経がたかぶりやすいものの、
神経症、不眠症、小児夜泣き、更年期障害、
血の道症、歯ぎしり)

七物降下湯・・・

漢方薬というのは左のリストにもあるように、方剤として古くからどの生薬を混合するかだいたい決まっています。当診療所でも、それぞれの方剤に医師が患者様毎に必要なと思う生薬を加減して調整しています。ここで取り上げる『七物降下湯』という方剤は大塚敬節(おおつかよしのり：戦前から戦後にかけて日本で漢方薬の普及に尽力した医師 1900-1980)により開発された貴重な方剤です。構成生薬は、四物湯(下図参照)に黄耆、黄柏およびチョウトウコウを加えたものです。高血圧およびその随伴症状を改善するこの新たな方剤の発見は、現在のわれわれの治療の幅を広げました。



※**四物湯**の効能：貧血気味で色つやの悪い体質で胃腸障害のない人の、産後あるいは流産後の疲労回復、月経不順、冷え性、しもやけ、更年期障害、貧血など

チョウトウコウの煎じ方・・・

実はチョウトウコウは『後煎(あとせん)』といって、煎じ時間は短くてよいとされる生薬のひとつです。煎じ終わる間にチョウトウコウを加えて5分ほど煎じ、他の生薬と一緒に濾(こ)した後服用します。その工程が煩雑になることを考慮し、当診療所では、まとめて煎じていただくよう説明しています。チョウトウコウを20分以上煎じると降圧作用が低下するという、古人の経験を裏付ける実験結果もでています。しかし、セッコウを先に煎じた後にほかの生薬を投入しその後煎じた場合は、セッコウなしの状態と比較すると、有効なアルカロイドの成分が多く存在していたことが判りました。チョウトウコウを主薬とする釣藤散料には微量ですがセッコウが含まれているため、一緒に煎じること降圧作用を示すアルカロイドの残存はある程度期待できると思われます。

まだすべてが解明しているわけではありませんが、方剤に含まれる生薬にはそれぞれ、お互いに効果を高めあったり、もしくは悪い影響を消しあったりと、その組み合わせにも重要な役割があることを改めて知ることができますね。

